

# 海とともに歩む 海事都市尾道

## 海と尾道

尾道市は、古くから港町として栄え、現在も海に関わる産業に支えられています。今回の特集では、今も昔も海とともに歩んできた「海事都市尾道」の魅力を紹介します。  
商工課(☎0848-38-9182)

「海事都市」とは、海に関わる産業や文化を中心に発展してきた都市のことです。瀬戸内海のほぼ中央に位置する尾道は、穏やかな海と天然の良港に恵まれ、古くから海上交通の要所として栄え、造船業などの海事産業が発展してきました。

### 港町を育てた尾道水道

港町尾道の発展に欠かせなかった存在である尾道水道により、北前船等の多くの船舶が寄港するとともに、他のどこにもない魅力的な景観が生まれました。嘉応元年(1169年)に正式開港して以来、尾道港の歴史は850年以上続いています。



### 海を守った村上海賊

中世の瀬戸内海では「村上海賊」が活躍していました。彼らは瀬戸内海の航路を熟知し、卓越した航海技術を持ち、海上交通を管理する役割を担っていたといわれています。

### 繁栄を運んだ北前船

江戸時代になると、日本海側の港町と大阪を結んで物資を運ぶ「北前船」が瀬戸内海を航行し、尾道にも多くの船が立ち寄りました。米や肥料など様々な物資が運ばれ、港町は大いに賑わったといわれています。

海の交通によって人や物、文化が集まり、尾道は港町として発展してきました。こうした歴史は、日本遺産の3つのストーリーとしても認定され、全国から注目されています。

# 「造船業・船用工業・海運業の集まる尾道」

尾道市内や周辺地域は、年間日照時間が比較的長く、海も穏やかです。これは船づくりに適した自然条件であり、造船業や船の部品を製造する船用工業が盛んに行われてきました。

また、海を渡って人や物を運ぶ海運業は、平安時代から今日までずっと尾道の暮らしを支えてくれています。

## 造船業

尾道では、人を運ぶフェリーや物を運ぶ貨物船、海をパトロールする巡視船、作業のためのクレーン船など様々な船が造られています。中には修繕専門の会社もあり、それぞれの会社が強みを生かして活躍しています。

## 船用工業

船には、エンジンやレーダー、窓やはしごなどを含めた200以上の部品が使われています。その製造をするのが「船用工業」で、尾道には約40社の会社があります。

市内はもちろん、全国の造船業界を支えています。

## 海運業

島の多い尾道では、船は物資の運搬や交通の手段として大きな役割を担っています。

また、尾道水道をフェリーが行き交う風景は、尾道らしさを感じさせる景色として親しまれています。

## 造船業を担う人づくり 因島技術センター

日本初の造船技能学校である因島技術センターが平成11年に設立されました。以来、地域の造船の技能継承に大きく貢献して造船業を支えています。

## 世界初の「水素燃料船」への挑戦

### 今後の予定

海との長い付き合いの中で、船は技術の進歩とともに変化していきました。そして今も、環境への負荷軽減を目指して「水素燃料船」建造への挑戦が行われています。

建造に挑戦中の船は、燃料に「水素」を使う国際航海を行う船として、世界で初めての実証船です。国の助成を受けたプロジェクトの一環で、令和10年度に完成し、試験運航を行う予定です。

開発は複数の企業が分担して進めています。

- 尾道造船(株): 船の設計・建造
- (株)ジャパンエンジンコーポレーション: 大型の水素燃料エンジンを開発
- 川崎重工業(株): 水素タンクと燃料供給システム(MHFS)を開発・製造

通常は、船の検討開始から運行を始めるまでに約3年かかります。しかしこの船は、7年の長期プロジェクトで挑戦しており、令和3年から検討を始め、令和10年の竣工を目指しています。世界初の船ということもあり、乗り越えなければならない課題も多くあります。開発では、設計基準の整備、水素による脆化(材料がもろくなること)対策や漏れ防止など、多くの課題に一つずつ取り組んでいます。

今年12月: 建造開始

来年3月: 進水予定

現在は設計のほか、造船所での大規模設備投資や溶接技術者の育成も進められています。

※「進水」は、船がはじめて海に浮かぶ瞬間です。この時に盛大な「進水式」が行われます。

## voice



これから建造が始まり、難しいことも多いとは思いますが、一丸となって世界初の水素燃料船の建造を完工すべく頑張って参ります！

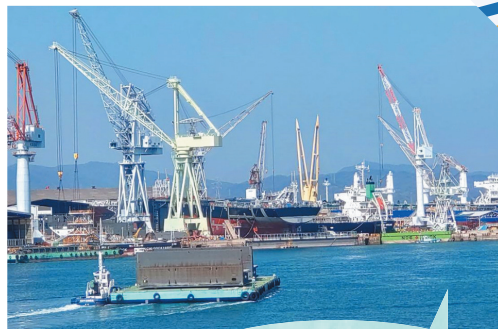
浅海直人さん  
(尾道造船(株)造船部長)

## こんなところにも造船技術!?

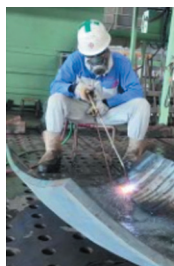
尾道市役所本庁舎にも、造船の技術が生かされています。外観は船をただ模しているだけでなく、造船特有の技術「ぎょう鉄」を用いた鋼板が外装に使用されています。また、陸路では運べない形のパーツは、船の部品のように海路で運んで建造されました。

長年培われてきた技術と海沿いの立地により、尾道ならではの建築となっています。

私たちの身近な場所にも、海のまちの技術が息づいているのです。



船の部品は  
こうやって運ばれている!



### 高度な加工技術「ぎょう鉄」

造船には、「ぎょう鉄」という独特の技術が使われています。分厚い鋼板を火と水で加工し、複雑な曲線の形に仕上げる技術です。この技術によって、特に船の先端部・後端部は美しい曲線が生み出されています。

技術の習得には長い年月が必要で、職人として一人前になるまで10年程度はかかるとも言われるほどの高度な技術です。

## 海をもっと身近に感じるイベント



### 造船鉄工祭

造船や鉄工の技術を体験できるイベントです。普段は見ることのできないものづくりの現場を見ることができます。



### ONOMICHI DOCKYARD Thanks Day

尾道造船所内で様々なステージイベントや出店が行われます。今年は5月24日(日)に開催予定です。



### 洋上セミナー

小学5年生～中学3年生を対象に、船に乗って重要文化財や歴史展示施設を訪れるイベントです。毎年異なるテーマと行き先で実施されています。

海とともに歩んできた尾道の文化は、こうしたイベントを通じて次の世代へと伝えられていきます。



### 進水式

船が初めて海に浮かぶ、船の誕生日です。尾道造船・内海造船では、一般の人も見学が可能です。

### 進水式情報



▲尾道造船HP



▲内海造船HP